

関東地方の高校生・大学生が読売新聞で、 「食」と「SDGs」について学び、交流しました!

主催 Sante! 実行委員会、独立行政法人環境再生保全機構
後援 読売新聞東京本社、読売中高生新聞
協力 環境省地方環境パートナーシップオフィス(EPO)、
 地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)、
 ESD活動支援センター、全国大学生環境活動コンテスト実行委員会
協賛 株式会社タニタ、キリンホールディングス株式会社、
 協栄産業株式会社、SGホールディングス株式会社



研修後に生徒たちで記念撮影

2020年1月11日、関東地方の8高校、2大学のSDGsに積極的に取り組んでいる活動グループが大手町の読売新聞に集まり、「ヘルシー郷土料理で健康まちおこし」をテーマに学び、語り合いました。

当日は、話題の「タニタ食堂」のお弁当を食べながら、和やかに自己紹介から始まりました。

基調講演では、読売新聞より「食とSDGs」と題して、食品ロスの現状と今後の取り組みについて学び、株式会社タニタより、「郷土料理コンテスト(Sante!)」の取り組みや健康レシピについて学びました。



タニタ食堂のお弁当を食べながらスタート

基調講演 ①

伊藤剛寛さん 読売新聞生活部編集委員

「食とSDGs」：食品ロスは、ひとりひとりの気づきから!

読売新聞生活部編集委員の伊藤剛寛さんより、食品ロスとSDGsの深いかわりを中心に生活者の目線でお話を頂きました。最近の身近な取り組みとして、クリスマスケーキやおせち料理、恵方巻の予約制による食品ロスの削減。日常生活でも、食品の買いすぎ、作りすぎ、食べすぎる工夫など、ちょっとした思考で食品ロスに貢献できると問いかけていました。

また、食品を廃棄するための車での運搬、焼却する際のCO₂の排出の環境問題や自治体の廃棄処理費=税金の上昇など、さまざまな問題に関連していると食品ロスの重要性を説明していました。

日本の取り組みとして、2019年に「食品ロス」削減法の成立(食品ロス削減の推進を「国民運動」と位置づけ、事業者や消費者に努力を求める/毎年10月を食品ロス削減月間に指定 等)の説明や2019年のG20大阪サミット「大阪首脳宣言」(食料の損失・廃棄の削減を含め、流通を効率的に行う必要)など、今後の取り組みについての説明もあり、有意義な講演となりました。



読売新聞 伊藤剛寛さん

基調講演 ②

荻野菜々子さん 株式会社タニタ ブランディング推進部 (管理栄養士)

「ヘルシー郷土料理で健康まちおこし」：ご当地タニタごはんコンテストをとおして!

株式会社タニタ ブランディング推進部に所属し管理栄養士でもある荻野菜々子さんより、「ご当地タニタごはんコンテスト」についてお話して頂きました。このコンテストは「タニタが考える健康的な食事の目安で郷土料理を現代版にアレンジ」が題材で、毎年10月に食と健康の祭典・Sante!の中で全国大会を開催しグランプリを決定します。

キーワードでもある郷土料理は和食の代表であり、タニタ食堂の定食も和食の1汁3菜になっていること、タニタの考える健康的な食事のルールをもとにレシピを考えるため、考案者や食べる側の食育につながることで、郷土料理は地元の食材を豊富に使用しているため、地産地消につながると説明がありました。

また、和食文化は日本が世界に誇る健康食であり、地域を盛り上げるために特産品、郷土料理のメニューを提供することは作り手側の働く意欲、働きがいにもつながるとお話があり、食べることで、健康でいることの大切さを身近に感じる講演となりました。



タニタ 荻野菜々子さん

ワークショップ

ファシリテータ / 全国ユース環境ネットワーク事務局

「2030年に向かってユース世代が取り組む 地域のSDGsアクション!」

今回のワークショップでは、『今の自分たちの活動』について、高校、大学と学校単位の席から移動し、他校と入り混じっての意見交換が行われました。

最初のテーマは、「実力や質の向上」です。自分たちの活動は、どんな人たちが共感してくれているか?弱点はどこか?克服はできるか?と、かなりシビアなテーマですが、大学生が引き出し役となり、積極的な議論が始まりました。

続いたテーマは、「次の展開」。今後、何を進めたいか?今の活動を大きくするには、誰とどのように連携したらいいか?最後のテーマは、「後輩への継承」です。今の活動は持続可能か?後輩の募集、継承は?

自分たちの活動を振り返り、今後は語り合う。みなさん、同じ課題と同じ時間を共有し有意義な意見交換になりました。



ワークショップで意見交流